

# 外国語

## 1 目標

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

## 2 評価の観点及びその趣旨

観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
趣旨	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする	外国語で話したり書いたりして、自分の考えなどを表現している。	外国語を聞いたり読んだりして、話し手や書き手の意向などを理解している。	外国語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。

## 3 改訂のポイント

- 自らの考えなどを相手に伝えるための「発信力」やコミュニケーションの中で基本的な語彙や文構造を活用する力、内容的にまとまりのある一貫した文章を書く力などの育成を重視する観点から、「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、自らの体験や考えなどと結び付けながら活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう、4技能を総合的に(=バランスよく)育成する指導を充実する。
- 指導に用いられる教材の題材や内容については、外国語学習に対する関心や意欲を高め、外国語で発信しうる内容の充実を図る等の観点を踏まえ、4技能を総合的に育成するための活動に資するものとなるように改善を図る。
- 「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能の総合的な指導を通して、これらの4技能を統合的に(=相互に関連づけて)活用できるコミュニケーション能力を育成するとともに、その基礎となる文法をコミュニケーションを支えるものとしてとらえ、文法指導を言語活動と一体的に行うよう改善を図る。また、コミュニケーションを内容的に充実したものとすることができるよう、指導すべき語数を充実する。
- 中学校における「聞くこと」、「話すこと」という音声面での指導については、小学校段階での外国語活動を通じて、音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度等の一定の素地が育成されることを踏まえ、指導内容の改善を図る。併せて、「読むこと」、「書くこと」の指導の充実を図ることにより、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の四つの領域をバランスよく指導し、高等学校やその後の生涯にわたる外国語学習の基礎を培う。

## 4 評価規準と展開例

### 1) 単元名

第1学年 Unit 10 観光地から

**評** 教科書の場面が「サンフランシスコ」であっても、その場面に限定したねらいにするのではなく、「町や観光地」といったように、広く別の場でも能力が生かせるようにねらいを設定する。

**評** 単元の中心的なねらいには、「外国語表現の能力」や「外国語理解の能力」に関わる事項を設定する。また、文法事項などの言語材料ではなく、言語活動を目標の中心に設定する。

### 2) 単元のねらい

- ・町や観光地を口頭で案内する。 **【外国語表現の能力】**
- ・ペアワークにおいて、間違えることを恐れずに話す。 **【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】**
- ・助動詞 can, 疑問詞 when を用いた文の構造を理解する。 **【言語や文化についての知識・理解】**

### 3) 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
①ペアワークにおいて、間違えることを恐れずに話している。 <b>(話すこと・言語活動への取組)</b>	①町や観光地を口頭で案内することができる。 <b>(話すこと・適切な発話)</b>	※本単元はこの観点では評価しない。	①助動詞 can を用いた文の構造を理解している。 ②疑問詞 when を用いた文の構造を理解している。 <b>(書くこと・言語についての知識)</b>

**評** 評価の重点化を行う。ここでは、「話すこと」における「言語活動への取組」に絞っている。

**評** 場面や状況を具体的に絞る。評価規準と言語活動の設定に当たり、言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。ここでは、言語の使用場面は「町や観光地の案内」、言語の働きは「説明する」。(学習指導要領解説外国語編 p.20～28を参照)

※評価の重点化については『参考資料』(国研) p.21～26, p.37の表を参考にする

### 4) 単元指導計画と評価計画

※ここでは観点別評価や評定につながる評価(総合的評価)に関わる部分を示している。

時	○ねらい・主な学習活動	評 価			
		関	表	理	言
1	<p>○本単元で身に付ける技能や理解する内容を知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・warm-upとして、canを使って教師が出題する国や観光地についてのクイズに答える。</li> <li>・本単元で身に付ける技能、理解する内容、行うタスクを知る。</li> </ul> <p>○助動詞 can を用いた文の構造を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・助動詞 can を用いた文の構造を知る。(肯定文、否定文)</li> <li>・教科書本文を通して、can の使い方を理解する。</li> <li>・教科書本文から、町や観光地を案内するときに活用できる表現を探す。</li> </ul> <p><b>指</b> ねらい、言語活動、教科書本文を関連付けて指導する。重要な文法事項や表現が教科書本文でどのように使われているのかに注目させる。</p> <p>・教科書の内容をリプロダクションする。</p>				<p><b>指</b> "Hi, friends!2"Lesson5 Let's go to Italy. 出てきた写真や表現を用いるなどし、外国語活動の有用性を感じさせたり、学習への興味関心を高めたりする。</p> <p>① 助動詞 can を用いた文の構造を理解している。 (後日ペーパーテスト)</p> <p><b>評</b> 授業後など別の機会にも評価することもできる。</p> <p><b>評</b> ターゲットとする能力を適切に見取る問題とし、関係のない間違いについては評価の対象としない。</p>

	・ can を用いた文を使えるように練習する。				
2	○助動詞 can を用いた文の構造を理解する。 ・助動詞 can を用いた文の構造を知る。 (疑問文とその答え方) ・教科書本文を通して、can の使い方を理解する。 ・教科書本文から、町や観光地を案内するときに活用できる表現を探す。 ・教科書の内容をリプロダクションする。 ・ can を用いた文を使えるように応答練習する。		①	助動詞 can を用いた文の構造を理解している。 (後日ペーパーテスト)	
3	○疑問詞 when を用いた文の構造を理解する。 ・疑問詞 when を用いた文の構造を知る。 ・教科書本文を通して、when の使い方を理解する。 ・教科書本文から、町や観光地を案内するときに活用できる表現を探す。 ・教科書の内容をリプロダクションする。 ・ when を用いた文を使えるように練習する。		②	疑問詞 when を用いた文の構造を理解している。 (後日ペーパーテスト)	
4	○町や観光地を案内する時の表現を理解する。 ・ That's ~ , Can you see ~ , Look at ~ , The name comes from ~ など町や観光地を案内するときに使われる教科書の表現をまとめる。 ・他の表現について補足説明を聞き理解する。 ・教師が準備した町や観光地について、案内するときに使われる表現を用いて、ペアで案内の練習をする。 ・次時の案内に用いる写真等の資料を作成する。	①		ペアワークにおいて、間違うことを恐れずに話している。 (活動の観察)	
5 (本時)	○町や観光地を案内する練習をする。 ・ペアで町や観光地を案内し合う。 ・グループで町や観光地を案内し合う。 ・学級全体に対して町や観光地を案内する。	①		ペアワークにおいて、間違うことを恐れずに話している。 (活動の観察)	
6	○町や観光地を案内する。 ・ペアで町や観光地を案内する練習をする。 ・バスで観光地を巡っている場面を想定して、紹介する場所や相手を変えながら、他の生徒と自由に案内し合う。 ・上記の活動中に教師のところに来て、2か所の町や観光地(1か所は生徒が準備したもの、もう1か所は教師が提示した初見のもの)を案内する。	①		町や観光地を口頭で案内することができる。 (ダイアログテスト)	<p><b>評</b> 「指導→十分な練習→自信を持つ」という過程を経てから評価を行う。</p>
後日	<p>&lt;ペーパーテスト&gt;</p> <p>□新しく転入してくるクラスメイトに対して、自分が上手にできることとできないことを紹介したり、相手にできるかどうかをたずねたりする表現を書く問題</p> <p>□場面に合う適切な表現を書く問題</p> <p>&lt;帯活動等&gt;</p> <p>・毎時間の授業の最初に生徒1人がオリジナルの資料を用いて、学級全体に対して町や観光地を案内する。 ・ペアで町や観光地の案内をする。</p>		① ②	第1～3時の評価規準で (ペーパーテスト)	<p><b>評</b> 知識の定着を測る場合でも、言語の使用場面等に配慮するなどコミュニケーションを意識した問題で判定することを心がける。</p> <p><b>評</b> 外国語表現の能力「話すこと」は観察では見取れないため、評価するには、生徒の発話内容をチェックする場面を設ける必要がある。</p>

**指** 第6時の言語活動における生徒の具体的な姿をイメージし、そこで必要となる町や観光地の案内に用いる表現を含めて練習するようにする。

**指** 本単元で身につけた力を維持・向上させるために、本単元終了後一定期間経過した後や帯活動の時間で繰り返し扱うなど技能を活用する機会を設けることが大切である。

関：コミュニケーションへの関心・意欲・態度  
表：外国語表現の能力  
理：外国語理解の能力  
言：言語や文化についての知識・理解

5) 本時の学習

- ① 本時のねらい  
・ペアワークにおいて、間違うことを恐れずに話す。【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】

② 本時の展開

時(分)	学習活動	教師の支援	☆評価(評価方法)
3	1 本時の目標と活動の流れを確認する。	・本時の学習に見通しがもてるように、目標と活動の流れを提示する。	
23	2 ペアで町や観光地を案内し合う。 案内に用いる資料は、生徒一人につき、教師が準備したもの2種類、生徒が準備したもの1種類の計3種類。  ・案内1回目と振り返り	<p>・デモンストレーションをしながら活動の仕方を理解させる。 ・表面に町や観光地の写真等を、裏面に日本語による簡単な解説を記載した案内資料を生徒一人につき、2種類配付する。</p> <p>・案内し合っている様子をそばで観察し、間違いを恐れずに発話しようとしているペアの発話の様子を学級で共有できるように紹介する。 ・本時の目標を踏まえて、振り返りの視点を示す。</p>	<p><b>指</b> 案内する人と案内される人の間にインフォメーションギャップがあることが必要。(ペアで異なる資料を用いる。)また、外国語で発信しようとする関心・意欲を高めるため、生徒オリジナルの資料も用いるようにしたい。</p> <p>☆ペアワークにおいて、間違うことを恐れずに話している。(活動の観察)</p> <p><b>評</b> ペアワークで見取れなかった生徒を見取ったり、支援を行った生徒のその後の様子を見取ったりする。</p>
12	3 グループで町や観光地を案内し合う。 ・4人のグループ内で一人ずつ案内する。 ・友だちの案内の仕方でよかったところを評価し合う。	・次時の外国語表現の評価に係る間違いを発見したときにはメモしておき、本時の振り返りの際にまとめるところで指導する。 ・グループ活動終了後、互いのよかったところを評価させる。	<p><b>評</b> 実際に活動中に見取れる生徒の具体的な姿を評価規準にする。 ・コミュニケーションに取り組んでいる様子を評価し、そこで用いられている英語の正確さや適切さなどの運用上の能力は評価しない。</p>
8	4 全体の前で町や観光地を案内する。  <b>指</b> ペア、グループ、全体と活動をステップアップさせながら、十分に練習させ、表現の能力を育成する(次時のダイアログテストで見取る)。	・教材提示装置を用いて、案内役の生徒の資料が全体に見えるようにする。 ・学級全体に対して案内した生徒のよかったところを全員に伝える。	
4	5 本時の活動を振り返る。 ・自分のよかったところ ・うまく表現できなかったこと ・修正すべき間違い	・生徒の活動全体を通して、よかったところを具体的にあげて確認することで、生徒の次時への意欲を高めるようにする。 ・修正すべき間違いについて確認する。	

③ 本時の評価

	おおむね満足と判断される生徒の具体例	支援を必要とする生徒への指導の手立て
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	ペアワークにおいて、間違うことを恐れずに話している。	そばに寄り添い、一緒に案内をする。また、第4時にまとめた表現を参照させつつも、本時は正確さより積極性が大切であることを伝えて意欲を高めるようにする。

**評** 評価の仕方の例  
◇第4時と第5時のペアワークで英語を用いて話しているかどうかを観察し、  
・話している場合、○  
・話していない場合、× とする。  
◇2回の評価結果で、  
・○が2つなら「十分満足できる」状況(A)  
・○が1つなら「おおむね満足できる」状況(B)  
・×が2つなら「努力を要する」状況(C) とする。